

# 埼玉県深谷市

(人口：143,811人、面積：138.4km<sup>2</sup>)

※令和元年7月1日現在

## 視察日時

令和元年7月12(金)

午前9時21分～10時40分

## 視察場所

深谷市庁舎：埼玉県深谷市仲町11番11号

## 市の概要



埼玉県北西部に位置し、東京都心から70km圏にある。平成18年1月1日、深谷市のほか3町と合併し、新「深谷市」が誕生した。県下有数の農業地帯であり、深谷ねぎは日本一の出荷量を誇る。第一国立銀行の創立に携わるなど、近代日本経済の基礎を築いた渋沢栄一の生誕地でもある。

## 【視察内容】

### ○議会だよりについて

深谷市の議会だよりは、みせる議会だよりをキーワードに市民目線で作成することを心がけている。近隣市町との勉強会などへの参加や、出版社等への研修を行ったこともあり、スキルを磨いている。

## 【調査事項】

### 議会だよりについて

#### ○基本姿勢

一人でも多くの市民に読んでもらえるように、写真を多く使うほか、レイアウトでは余白をとることも意識し、読みやすくしている。

## ○編集の際の工夫

表紙は観光協会写真コンクールにおいて入賞した深谷市の魅力ある写真を掲載し、インパクトのあるものとなっている。各ページでレイアウトの構成や効果的な写真の使い方を工夫し、読みやすくしている。また最終ページには、各地域の特色を紹介するため、「学校応援団の取り組み」をシリーズ化して掲載し、子供やその保護者にも見てもらえるような工夫をしている。

## ○今後の課題・改善点

「学校応援団の取り組み」をシリーズ化してきたが、来年度で市内の全小学校（19校）を一回りする事になり、その後も続けるのか、別の記事にする場合、何が良いのが課題となっている。



## 【所 感】

議会だよりの表紙の写真が色鮮やかであり、読者を引きつけるものになっていると感じた。一般質問の記事には議員個人の顔写真は一切載せず、記事に関連した写真やイラストを掲載し、わかりやすくされている。また、全員協議会の報告内容も掲載するなど、市政の重要となっている最新の情報を伝えており、参考にしたいと感じた。



# 埼玉県寄居町

(人口：33,843人、面積：64.25km<sup>2</sup>)

※令和元年7月1日現在

## 視察日時

令和元年7月12(金)

午後1時25分～2時55分

## 視察場所

寄居町庁舎：埼玉県大里郡寄居町大字寄居1180番地1

## 市の概要



寄居町役場

寄居町は埼玉県北西部、荒川が秩父山地から関東平野に流れ出すところに位置している。昭和30年の1町4村による合併後、大里郡唯一の自治体として単独町政を続けている。近年では彩の国資源循環工場や大手自動車メーカー四輪車生産工場が建設されるなど、発展を続けてきた。

## 【視察内容】

### ○議会だよりについて

町村議会広報全国コンクールにおいて、平成29年度から2年連続で最優秀賞(第1位)を受賞しており、今年度は3連覇を狙っている。表紙の写真や見出しのタイトルが斬新であるほか、特集や町民登場が重要と考えており、写真を多く使用するなど、読んでもらえるための工夫をしている。

### ○基本姿勢

「読まない議会だよりに出す意味なし」をモットーに、日本一クオリティの高い議会だよりを目指し編集することとしている。

## ○特徴（町民参加）

多くの町民参加を心がけ、予算・決算・重要案件には、必ず議会と町民それぞれの視点を掲載している。4年前に、議会だよりで日本一になることを決め、4年間の編集サイクルを意識して取り組んでいる。議会だよりも議会改革のツールとしている。

## ○編集の際の工夫

審議結果だけではなく、審議経過を伝え、町民の関心が高いと思われる議案等に優先順位をつけ掲載している。読みやすい紙面とするため、行政用語、議会用語は言い換えるか、解説をつけている。写真は1記事に1枚以上を掲載するよう努め、キャプションは、記事を補完するだけでなく、伝える内容を端的に表すものを選んでいる。一般質問議員の写真はできるだけ動きのあるものを使用している。



## ○今後の課題・改善点

より良い議会だよりを目指し、工夫・改善をしていきたいとのことである。

## 【所 感】

寄居町の議会だよりは、毎回、町民の顔写真と意見を多く載せているところが特徴であり、読者を増やす一つの要因にもなっていると感じた。この町民への取材は各議員が直接足を運んで行っているとのことであり、議会だよりに対する情熱があることも感じ取ることができた。また、表紙の写真や見出しのタイトルも特徴的であり、(例「議会が必要?」、「私たちの声、議会に届いていますか?」など)読者を引きつけるものとなっている。



当市においては、表紙のイラスト化や全ページフルカラー化、文字数の削減などを行い読みやすくなるように取り組んでいるが、慣例にとらわれず、市民の方が手に取って読んで見みたくなるような内容の紙面づくりを心がけていきたいと感じた。